

今年は例年より早く桜が開花して、この編集後記執筆中の3月末には満開を迎えています。四季の変化が大きい日本において、長い冬を耐え忍んで、やっと春がきたことの象徴で、桜の開花は心がはやるときです。1年の半分以上は葉を落として存在感のない桜の木が、エネルギーを蓄えて一気に花を咲かせたかと思うと、わずかの期間でぱっと散ってしまう。さらに散った後はみるみる葉をつけて緑におおわれる、その生命力には圧倒されます。この生命のダイナミズムを具現する桜は、古来日本人の心性を形づくるひとつの象徴とされてきました。これまで3年間のコロナ禍で、各種の制限に抑圧されてきましたが、やっと解放されつつあり、明るい気分で桜をめどることができています。

学会や講演会もweb開催から現地開催が復活し、場を共有して顔と顔を合わせて議論する本来の学会のあり方のよさをあらためて感じ、安堵しています。かつて、亡き恩師から、学会で行われる「シンポジウム（公開討論会）」の語源は、ギリシア語の「シンポジオン（饗宴）」で、ともに酒を飲み語り合うことであると教えられました。昼間の学会のシンポジウムは「いいとこどり」の形式に過ぎず、夜の宴席で研究の苦労話や裏話を聞きながら、ざっくばらんに議論するのが本当のシンポジウムであると語られ、納得しました。夜のシンポジオン（饗宴）こそ、研究の芽がみつき研究の発展に結びつく中身のある充実した討論会と思われます。今後、夜のシンポジオンの復活が待ち遠しいものです。

さて、今回の特集は「椎間板の基礎と臨床」です。脊椎動物の中で、陸に上がり重い頭を支えて直立二足歩行となったヒトでは、脊椎の椎間板には大変な負荷がかかり、椎間板変性と腰痛はヒトの宿命です。椎間板変性やそれに関連する腰痛は、高齢期には万人が罹患し、克服すべき重要な課題です。中村雅也先生の企画により、椎間板変性のメカニズムや再生に関するいろいろな角度からの基礎研究と臨床応用としての治療法が紹介されています。門外漢である脳神経内科医の私でも、基礎研究の進歩に驚きと感心をおぼえ、また研究を早く臨床応用したいという先生方の強い情熱を感じました。基礎研究から実際の臨床での治療法確立までは、多くの壁が立ちはだかりますが、ひとつひとつ乗り越えて、研究成果が臨床応用される日が来ることを祈念いたします。遠くない将来、自分が罹患したときには、新しい治療の恩恵を受けたいものです。

桜前線は北上中、気を緩めすぎず個人の感染対策は怠りなく、明るい気分で新年度をスタートしましょう。

（亀山 隆）

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

山崎正志（編集委員長）
亀山 隆 園生雅弘 高橋敏行
高見俊宏 筑田博隆 永島英樹
中村雅也 根尾昌志 原 政人
飛驒一利 堀 正明 松山幸弘
安原隆雄

Vol. 36 No. 1
(2023 年 4 月 17 日発行)

毎月 1 回 25 日発行

1 部定価（本体 2,500 円＋税）

（配送料別）

年ぎめ予約購読料 33,300 円＋税

送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

（担当：山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2023,
Printed in Japan

JOCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。